福地和夫先生　谷江幸雄先生
野松敏雄先生　樋下田邦子先生
記念号によせて

福地和夫先生，谷江幸雄先生，野松敏雄先生，樋下田邦子先生が，本年 3 月をもって，本学を退職されます。福地，谷江両先生は，本学創設間もない頃に着任され，野松先生は産業経営学科の入学定員増時に，樋下田先生は，コミュニティ福祉政策学科に介護福祉士課程を設置時に，それぞれ着任されています。

福地和夫先生は，岐阜市西郷のお生まれで，東京教育大学体育学部を御卒業後，本学に助手として着任され，初期には体育実技，保健体育講義を担当されていましたが，スポーツ経営学科に転籍されてからは，生涯スポーツ論，レクリエーション・インストラクターの資格を取得されていましたので，レクリエーション演習を担当されていました。ご専門の競技種目のラグビーでは, 本学課外活動クラブの監督をお務めいただき, 岐阜県, 大垣市のラグビーフットボール協会の理事，東海学生ラグビーフットボール連盟役員を長年務めておられ，競技の普及にも多大の功績を残されています。御自身も全国教員ラグビーフットボール大会に岐阜県代表選手として出場され, 優勝（83 年), 準優勝（84 年）を経験され, 83 年には, 岐阜市体育協会から優秀選手として表彰されておられます。また，大学行政においても，学生部長，協議員を務められ，大学の発展にも寄与されています。

谷江幸雄先生は，香川県まんのう町のお生まれで，横浜国立大学経済学部を御卒業後，慶應義塾大学経済学研究科へ進まれ，本学には 78 年に計画経済論（現，比較経済システム論）の担当者として着任されました。教務部長，経済学部長の要職に就かれ，経営情報学科，経済学部コミュニティ福祉政策学科の開設に尽力されました。さらに，2009 年から 2013 年まで学長の重責を担われ，学長選考規程を現行規程に改定されました。

先生の初期のご研究は，比較経済システム分析アプローチによる，東独経済と農産物価格の形成に関する研究に集中的に取り組まれ，その成果が『東ドイツの農産物価格政策－その歴史的構造的特徴－』（岐阜経済大学研究叢書 4）であり，このご研究により，91 年慶應義塾大学より経済学博士の学位を授与されておられます。

先生とは兄弟のように親しくお付き合いをさせていただき，毎晩のように大垣の町を飲み歩き，研究のこと，学生の教育について話し合ったことが昨日のことのように思い出されます。全学ゼミナール大会，卒業論文審査報告会，海外ゼミ研修旅行は，この時の会話から生まれた事業と言えるでしょう。

「近経の人と議論しているほうが刺激がある」「君は近経の人間なのに大学で一番のマルクス主義者だ」と言われたことが今でも記憶に残っています。

また，ソ連東欧の民主化によって「社会主義経済が崩壊した」と喧伝されたとき，マルクス主義経済学者から，社会主義経済，マルクス経済学に対する擁護論が全くと言っていいほど発言がなかった状況の中で『ソ連経済の神話－システム転換の経済学－』を著され，資本主義対社会主義の論争に一石を投じておられます。類書の中でも白眉をなすと私は高く評価しています。

先生は 2017 年 1 月 27 日 6102 教室において,「ヨーロッパ地域研究」の最終講義を「ソ連の「社会主義」とは何だったのか」というテーマで行われています。講義の中で先生は，ソ連経済の本質について「国家統制型の市場経済」であったと御自身の仮説を述べておられます。聴講する多くの現役学生に交じって，先生の出身地の香川から本学に入学し谷江先生の教えを受けたゼミの卒業生岡村康君が来垣し，聴講してくれており，我々教職員一同を大いに感激させてくれました。彼は学生時代に友人 3 人とシベリア鉄道に乗り，民主化後のソ連・東欧を旅した経験をもつ行動力のある若者で我々教員の記憶に残る学生でした。

野松敏雄先生は，富山県高岡市の御出身で中央大学商学部を御卒業後，中央大学大学院商学研究科，明治大学大学院経営学研究科博士課程を終えられた後，八戸大学商学部で 9 年間勤務された後，91 年の産業経営学科の充実，経営情報学科を増設し，経営学部を開設するための中心的教員として，91 年に着任されました。中小企業論（現，スモールビジネス）を担当され, 大学院では, 日本の中小企業研究を担当され, 御自身の研究テーマである日本と先進国（特にフランス）の中小企業政策の比較研究に一貫して取り組んでおられました。また，大垣商工会議所産学連携推進委員会委員として企業の経営相談を長年担当され，地域の産業振興に貢献されてきました。

先生はまた，教務部長，理事，経営学部長（3 期 6 年）を務められ，本学経営学部の発展に多大の足跡を残されています。

本学初の強化指定クラブであるボート部の部長を競技経験がないにもかかわらず創部以来引き受けられ，入試広報課の濱崎正人氏と親身に部員の面倒をみておられるお姿に

は唯々頭が下がる思いがしました。先生とも酒席を伴にする機会が多くあり，その席では先生の前任校の所在地八戸の「鮫八」という炉端の件で話の花が咲いたことも，先生との良き思い出です。

樋下田邦子先生は山形県の御出身で国立相模原病院付属高等看護学院を御卒業後，千葉県立がんセンター病院，千葉労災病院等において 93 年まで看護師として勤務されています。その後佛教大学，日本福祉大学大学院，関西福祉科学大学大学院で，福祉マネジメント，臨床福祉学を研究され，2006 年コミュニティ福祉政策学科に介護福祉養成課程を開設したとき，その担当教員として赴任されました。その後，ボランティア，地域福祉論，ソーシャルワーク演習を御担当いただきました。「地域貢献」を建学の精神の一つとして掲げている本学は，文科省の方針もあり，学生のボランティア活動を積極的に支援するために，ボランティア・センターの設置を構想しました。その時，樋下田先生は「サービスラーニングは，知識を総合したり，創造的に問題を解決したり，交渉したり，妥協したりするような技能を開発する機会を学生に与える。サービスラーニングを通じて開発される特性には，イニシアチブや柔軟性と順応性，寛容さ，共感といったものも含まれる。」「利益を得る対象が，ボランティアではコミュニティであるが，実習などにおいては学生である。しかし, サービスラーニングは, そのどちらにも利するものである。」と強く主張され，現在センターはボランティア・ラーニングセンターと名付けられ，先生には初代センター長をお務めいただいています。そこに集う学生達は, サービス（奉仕）と学習に全力で取り組んでいます。樋下田先生を先頭に学生達は今も東日本大震災の被災地の人々の支援を継続しています。これらの活動は本学にとって大変誇らしいことだと学長として感謝致しております。

以上それぞれのお立場で，本学の教育・研究の発展に多大の功績を残された四名の先生方が，世の決まりごととはいえ，本学を去られることは，間近に迫った 18 歳人口の減少（2018 年問題），そして 50 周年を機に大垣女子短期大学との法人合併によって新しく大垣総合学園として出発する本学にとって大きな痛手であります。

残る教職員一同，先生方の在職中のご活躍に負けぬよう頑張っていく所存です。

先生方の益々のご活躍とご健勝を祈念致します。

岐阜経済大学学長
岐阜経済大学学会会長　石　原　健　一